

第7回日本リハビリテーション医学会秋季学術集会

理学療法学専攻 久保 峰鳴

2023年11月3日(金)～11月5日(日)に宮崎県のシーガイアコンベンションセンターで第7回日本リハビリテーション医学会秋季学術集会が開催されました。

本学術大会では、医師を中心に、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士といったリハビリテーション職に加え、看護師など多職種が一同に会し、様々なテーマの講演・演題発表が行われました。大会テーマは「リハビリテーション医学会イノベーション—継承と革新—」でした。リハビリテーション医学発展のため、最先端の知識や技術に関する報告、またそれらについて修得を目的とした講演などが多くあり、まさにテーマに合致した学会内容であったと感じました。

私は、一般演題として、「変形性膝関節症患者における歩行時膝関節の動的なStiffnessと推進力および制動力の関連性」を発表しました。本演題は、関西医科大学リハビリテーション医学講座の長谷 公隆教授をはじめとする、医師との共同研究です。

本研究の新規性は、変形性膝関節症(KOA)患者の歩行時膝関節の動的なStiffness(KDJS)の増加が、歩行能力低下につながることを示したことです。本研究の目的は、KOA患者でKDJSと歩行推進力および制動力の関連性を、健常者との傾向の違いから明らかにすることとしました。対象者は、KOA患者(KOA群)とKOA群に性別と年齢層を揃えた健常成人各40名です。三次元動作解析装置と

床反力計(アニマ社製 MA-3000・MG-1120)を用いて快適歩行を計測しました。得られたデータについて、患側立脚期を100% Stance phase (SP)として時間軸で正規化しました。荷重応答期に相当する0%から20%SPの区間で、膝最大伸展モーメントが生じたタイミングから最大屈曲角度のタイミングまでの、矢状面上膝関節モーメントと角度の回帰直線の傾きをKDJSとしました(Chang, 2017)。KDJSの群間比較を行い、各群でKDJSと歩行推進力および制動力の積分値についてピアソンの相関係数を算出しました。結果は、KDJSはOA群で有意に高値、またOA群のみKDJSと歩行推進力($r=-0.40$)および制動力($r=0.46$)に有意な相関関係を認めました。これらより、膝OA患者のKDJSは健常者より高値であり、増加するほど歩行時膝関節機能を阻害し推進力と制動力に影響を与え、歩行能力低下の要因となり得ることを示唆しました。

本発表におきまして、Young Investigator Award 優秀賞に選出して頂きました。

日本リハビリテーション医学会という非常に大きな学会が主催する学術大会で、理学療法士ながら、私の発表を優秀賞として選出していただき、大変嬉しく、光栄に思います。

今後もリハビリテーション医療の一助となるよう研究活動に尽力して参ります。



表彰式の風景